人権教育シリーズ㊲

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

▼問い合わせ先　人権啓発教育課　☎(248)2399

合志南小学校の取り組み

自分の夢を切り開いていく力を

合志南小学校は、本年度児童数が1，041人となり、職員と合わせると1，100人を超える大規模校になりました。

本年度、学校教育目標を『未来創造』～夢に向かって、心豊かに共に学び合う子どもの育成～』としました。子どもたちの夢の実現に向けて、また人の育成ということから考えて、豊かな心を育む人権教育の推進・充実を学校教育の基盤に進めていこうと考えています。

子どもたちが夢を持ち、友だちや周りの人を大切にしながら、支え合い、自分の夢を切り開いていく力を身に付けてくれることを願っています。

いじめや差別をしない、させない子どもに

学校では、各学期に人権旬間を設け、部落差別をはじめさまざまな人権問題の学習を進めています。

学習のまとめとして、校内人権集会を行ないます。本年度は、6月26日になかまづくり委員会の子どもたちの進行で行ないました。「いじめや差別のない学校にしていきたい」という委員会からの訴えに始まり、各学年から、学習を通して学んだことを発表。それに対して聞いていた子どもたちが感じたことを伝え合いました。「自分がされて嫌なことは友達にしない」「やさしい言葉を使おう」「気持ちを伝えること、分かり合うことが大事」「家族や人を大切にしよう」など、子どもたちに受け止めてほしいと思う言葉がたくさん発表されました。

一人ひとりの思いを共有しながら、いじめや差別をしない、させない子どもに育てていきます。

自分の目で確かめ心で感じる学習

4年生では、部落差別をはじめあらゆる差別をなくすための交流や学習活動の拠点である人権ふれあいセンターでの学習、5年生では水俣に学ぶ肥後っ子教室や菊池恵楓園学習、6年生では長崎での平和学習や人権ふれあいセンターでの学習など、現地に出掛けて自分の目で確かめ心で感じる学習に取り組んでいます。6年生では人権ふれあいセンターでの学習を基に合志中校区三小合同学習会も行なっています。

これは、中学校に入学する前に三小学校(合志小、南ヶ丘小、合志南小)の子どもたちが出会い、交流し合い、安心して中学校へ進むための貴重な学習の場となっています。

部落差別は絶対におかしいという認識に立って

人権教育を進めるためには、教職員の人権問題に関する認識や人権感覚が大切になってきます。そのために、授業研究会や研修会への参加、学校独自で行なう校内研修などで指導力の向上を図っています。

先日は「部落差別の現実と部落差別解消推進法等について」というテーマで校内研修を行ないました。部落差別解消推進法の第5条には、教育と啓発について定められています。部落差別は絶対におかしいという認識に立って、気付き、考え、行動することを再確認しました。

保護者や地域との連携ではPTA主催の南小フェスティバルという大イベントがあります。昨年は100人を超える講師(地域の人たち、警察官、看護師、芸術家、技術者など)の皆さんに約40の教室で、それぞれの経験や職業を基に子どもたちに交流体験活動を行なっていただきました。

子どもたちからは「私も○○になりたい」「すごいなと思う」「仕事は大変」「掃除をすることは気持ちいい」など、感想が聞かれました。

さまざまな人との出会いから、子どもたちは人を尊ぶ気持ちや正しい職業観を身に付ける機会になっています。

安心して楽しく過ごせる学校や地域づくり

人権教育は一人ひとりを大切にする学習です。人を大切にする気持ちや豊かな人権感覚が身に付けば、みんなが幸せに暮らすことができます。

学校ではさまざまな取り組みを通して、子どもたちが未来への展望を持ち、お互いを大切にし合い、安心して楽しく過ごせる学校や地域づくりに努めていきます。

市民のひろば

若い経営者の主張大会 最優秀賞受賞

6月30日、嘉島町民会館で第51回熊本県商工会青年部連合会「若い経営者の主張大会」が行なわれ、市商工会青年部の上田耕太郎さん(上須屋)が最優秀賞に選ばれました。上田さんは不動産業を営む観点から、商工会青年部の活動を通じた地域発展に対する思いを熱く語りました。

今後は県代表として9月11日に福岡市で開かれる九州大会に出場します。

九州大会でも多くの人に思いを伝えます

県中学選抜バレーボール選手権大会 合志中学校が優勝

6月9日から10日にかけて、天草市で第38回熊本県中学選抜バレーボール選手権大会が行なわれ、合志中学校男子バレーボール部が見事優勝しました。

今大会には県下から32チームが出場し、熱戦を展開。センターとして出場した白井雄悟くん(3年生)は、「先生の熱心な指導とチーム全員の諦めない心、そしてたくさんの人たちのサポートのおかげで優勝できました」と話しました。

合志中男子バレーボール部の皆さん

被災者の悩み解決と交流 地域支え合いセンター交流会

7月15日、ふれあい館で合志市地域支え合いセンター交流会が行なわれました。

熊本地震で被災し、みなし仮設住宅に住む人たちを対象に、生活再建への悩み相談や他の被災者たちとの交流の場を設けようと株式会社ぞうさんのはな(橋本一郎代表取締役)と、市社会福祉協議会が開催。当日は各相談窓口が開設された他、ちゃんこ鍋の振る舞いやマジックショー、人形劇、楽器演奏などのステージイベントも行なわれ、会場では笑顔が溢れていました。

訪れた人は「被災前からの知人とも交流を再開するきっかけになりました」と喜んでいました。また、住宅再建のための相談をした人は「親身になってもらってよかったです。具体的な話ができ、不安が解消されました」と安堵した様子でした。

1生活再建へ向けた相談窓口
2さまざまなイベントで訪れた人も笑顔に
3振る舞われた元力士手作りのちゃんこ鍋
4ユーモアたっぷりのマジックショー